

特集：大学教育にみるレジャー・レクリエーション

## 武庫川女子大学文学部人間関係学科

吉田圭一\*

### Professional Education on Leisure and Recreation Studies at Mukogawa Women's University

Keiichi YOSHIDA\*

#### 1. はじめに

武庫川女子大学文学部人間関係学科におけるレジャー・レクリエーション教育は、昭和61年度の文学部教育学科「人間関係コース」開設とともにスタートした。当初から、総合的な人間学の重要な領域としてレジャー・レクリエーションを認知し、平成6年4月に新設された「人間関係学科」においても、心理領域・社会教育領域とともに、レクリエーション領域はカリキュラム構成の主要な柱として位置づけられた。

人間関係学科設置認可申請書によると、『人間関係の本質を解明し、豊かな人間関係を啓発する知識と実践の体系を総合的に研究・教育するために「人間関係学科」を設置する』を目的として、『人間関係のトータルなオーガナイザー育成』を目指して『心理領域、社会教育領域、レクリエーション領域を柱として、それぞれの領域をまんべんなく履修することとし、これに関連の分野として情報処理関係科目等においてカリキュラムを編成する』とある。

体育やスポーツに関する学科の設置認可申請以外で、レジャー・レクリエーションに関する領域をカリキュラム構成の主たる柱の一つとして位置づけての学科申請は、わが国でも初めてのケースであったと思われる。特に「レクリエーション」は、体育やスポーツに関連する領域としての認識が当時の一般的な常識であり、心理学や社会学と関連づけての大学教育はほとんど理

解されていなかったと想像できる。そのため、関係方面の理解を得るために手探りのアプローチが必要であった。しかし、そのような努力は結果的にレジャー・レクリエーションに関する専門教育の構造や教育理念を明確にすることにもなり、多くの苦労はあったが、予定どおりの設置認可が実現したのである。

このようなプロセスを経てスタートした「人間関係学科」も、時代の要請を受けて発展的にカリキュラムが見なおされ、平成12年度から「人間科学科」と名称を変更して、心理コースと社会福祉コースの2コース制で再出発することになっている。大きな変更点は、抽象的であった『人間関係のトータルなオーガナイザー育成』が、『認定心理士・社会福祉士・精神保健福祉士の育成』という具体的な目標に変更されたことである。

平成12年度からスタートする「人間科学科」におけるレクリエーション領域のカリキュラム上の位置は、主たる柱の一つから、関連する領域へと変更されたが、レジャー・レクリエーションの重要性に関する認知は変わっておらず、心理コース・社会福祉コースの両方に関係する専門教育として位置づけられている。

なお本学科では、日本レクリエーション協会が設けている指導者養成課程認定校制度に発足当初より参加し、レクリエーション指導者としての入門的性格の「レクリエーション・インストラクター」と、「余暇生

\*武庫川女子大学文学部人間関係学科 Department of Human Sciences, School of Letters, Mukogawa Women's University

活相談員」の養成課程認定校として継続的に認定を受けている。レジャー・レクリエーションに関する専門的な科目を履修した学生の内、指導者資格の取得を希望する数十名の者が、毎年資格を取得して卒業している。

## 2. 本学科レジャー・レクリエーション教育の理念

前項で述べたように、学科名称の変更やカリキュラムの変更が行われてきたが、「人間関係学科」新設時からのレジャー・レクリエーションに関する専門教育の理念は健在であり、今後もそれらの理念は継続していくべきものと考えている。以下、現時点におけるレジャー・レクリエーション教育の理念を述べることとする。

本学科におけるレジャー・レクリエーション専門教育の基本的な理念の一つは、レクリエーションの概念を「人間性の回復」として位置づけ、その論理的な構成を明確に確立していることにあると思う。レクリエーションという目的と、そのための手段や方法としてのレクリエーション活動、さらにそれらを可能にする場面としてのレジャー（余暇・自由時間）など、それぞれの意味を明らかにするとともに、全体の関連を構造的に組み立てていることである。心理学や社会学、さらに今後は社会福祉学など、学問領域としてすでに確立しているこれらの領域との関係において、このような論理的・構造的な展開なくしてレジャー・レクリエーション教育の位置づけと発展は不可能である。

二つ目は、当然のこととして、大学教育として相応しい論理的に整備された内容を目指している点である。単なる指導者養成ではなく、専門的にレジャー・レクリエーションをとらえうる教養を身につけることができる教育をイメージしていることである。理論的学習の場面のみならず、実技・実習の場面においても、「なぜ必要なのか」「なぜこうなるのか」など、たえず自ら考える内容を優先させ、創造的展開を身につけた人材の育成を考えている点である。ただ単に、何かができるようになる教育や指導者の資格を取得することができる教育ということではなく、理論的に裏づけられた創造的な展開を大切に専門家の誕生が可能であるような教育が提供できれば、と考えているのである。

そのような意味で、社会教育的場面で行われるような資格取得を目指す指導者養成とは一線を画した、大

学教育に相応しい教育理念によるレジャー・レクリエーションの専門教育が存在しているといえることができる。

## 3. 本学科レジャー・レクリエーション教育の構造

以下、本学科におけるレジャー・レクリエーション教育の構造を、「基本テーマ」「学習テーマ」「設置科目」などとともに、平成11年度入学生のカリキュラムを参考に述べることとする。レジャー・レクリエーション専門教育の具体的展開を考えるうえで、いささかでも参考にできれば幸いである。

### (1) レクリエーション領域の基本テーマ

大学教育に相応しい教育理念を確立するために、レジャー・レクリエーション教育の必要性を明確に示すテーマが必要である。基本テーマとして、次の三つを掲げている。

- ①レクリエーションの理論と実践の学習を通じて、健全な人間関係づくりの人間的前提となる明るい性格・積極的な生活態度を育て、仲間づくりをすすめるために必要な技法を身につけさせる。
- ②余暇の価値とその有効な活用のあり方を深く理解させ、自己の余暇開発能力とともに他者への余暇支援能力も身につけさせる。
- ③他の領域での学習とあわせて、より豊かな社会生活を追及する意識と能力を身につけさせる。

### (2) レクリエーション領域の学習テーマ

実際的な教育展開のために、基本テーマを受けた具体的な学習のテーマが必要である。学習テーマとして、「基礎」「指導」「企画」「余暇支援」「学習手法」「グループ」「地域」「福祉」「課題研究」「個別研究」などを設け、それぞれに該当するさらに具体的なテーマを設定している。

#### 「基礎」

- ①レクリエーションの基礎的理解
- ②余暇と余暇活動の基礎的理解
- ③レクリエーション活動の理解と方法

#### 「指導」

- ①レクリエーション指導の理解
- ②指導と指導者の一般的理解
- ③レクリエーション指導の方法

#### 「企画」

- ①行事の企画と運営の理解と方法

「余暇支援」

- ①余暇活動支援の理解
- ②余暇活動支援能力の開発

「学習手法」

- ①学習（訓練）手法の理解

「グループ」

- ①グループの理解とグループ指導

「地域」

- ①地域への展開

「福祉」

- ①福祉への展開

「課題研究」

- ①レクリエーションの課題研究

「個別研究」

- ①レクリエーションの課題発見と個別的研究

(3) レクリエーション領域の設置科目

レジャー・レクリエーション教育を展開するために、レクリエーション領域の科目として次のような科目を設置している。各科目は学習のテーマと関連し、それぞれのテーマを追及する内容で整備されている。

「基礎」

- ①レクリエーション概論
- ②余暇活動支援論
- ③レクリエーションの実技Ⅰ
- ④レクリエーションの実技Ⅱ

「指導」

- ①レクリエーション指導論
- ②レクリエーション指導法演習A
- ③レクリエーション指導法演習B
- ④レクリエーション指導法実習

「企画」

- ①レクリエーションの企画と運営

「余暇支援」

- ①余暇活動支援法演習A
- ②余暇活動支援法演習B

「学習手法」

- ①レクリエーション特講

「グループ」

- ①レクリエーション特講

「地域」

- ①地域レクリエーション論

「福祉」

- ①福祉レクリエーション論

「課題研究」

- ①レクリエーション演習ⅠA
- ②レクリエーション演習ⅠB
- ③レクリエーション演習ⅡA
- ④レクリエーション演習ⅡB

「個別研究」

- ①卒業論文

(4) レクリエーション領域の構造図

本学科のレジャー・レクリエーション教育の構造を全体的に図示すると次頁のようになる。なお、講義・演習・実習別の表記や学期別の科目配置・科目毎の単位数などについては紙面の都合で省略した。

図では、本学科レジャー・レクリエーション教育の目的にあたる三つの内容からなる「基本テーマ」を最初に掲げ、次に、その目的を達成するための目標としての「学習テーマ」を年次毎に示している。「学習テーマ」は、学生たちに何を学ばせたいのか、何を習得させたいのか、という観点から具体的なテーマを設定している。また年次ごとのテーマは、基礎から応用、基本から発展などの観点から学年の配置を考え、学習の効果や効率を配慮したものである。さらに、目的である「基本テーマ」、目標である「学習テーマ」をうけて、それぞれを達成するための具体的方法としての科目を「設置科目」として設定している。

## 5. おわりに

最初の項でも紹介したように、平成12年度から学科名称が変更され、カリキュラムも若干変更となる。しかし、本学科におけるレジャー・レクリエーション教育の基本的なコンセプトは現状と変わらない。このような改組転換も発展的なものとして受けとめている。

今回の改組転換においてレジャー・レクリエーションに関する領域が温存された理由は、大学教育に相応しい教育理念と構造的なカリキュラム構成、さらに合理的な方法などの確立への努力が評価されたことによるものであると信じている。この点について、今後もさらなる努力を重ねるつもりである。

基本テーマ

- 1、レクリエーションの理論と実践の学習を通じて、健全な人間関係づくりの人間の前提となる  
 明るい性格や積極的な生活態度を育て、仲間づくりをすすめるために必要な技法を身につけさせる。
- 2、余暇の価値とその有効な活用のあり方を深く理解させ、自己の余暇開発能力とともに他者への  
 余暇支援能力も身につけさせる。
- 3、他の領域での学習とあわせて、より豊かな社会生活を追及する意識と能力を身につけさせる。

学習テーマ

	【1年次】	【2年次】	【3年次】	【4年次】
	<b>基 礎</b>	<b>指導・企画</b>	<b>余暇支援・学習手法 グループ・課題研究</b>	<b>地域・福祉・課題研究 個別研究</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーションの 基礎的理解</li> <li>・余暇と余暇活動の 基礎的理解</li> <li>・レクリエーション 実技の理解と方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーション 指導の理解</li> <li>・レクリエーション 指導の方法</li> <li>・指導と指導者の理解</li> <li>・企画と運営の理解 と方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習手法の理解</li> <li>・グループの理解と グループ指導</li> <li>・余暇活動支援の理解</li> <li>・余暇活動支援能力の 開発</li> <li>・レクリエーションの 課題研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域への展開</li> <li>・福祉への展開</li> <li>・レクリエーションの 個別的な研究</li> </ul>

設置科目

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーション 概論</li> <li>・余暇活動支援論</li> <li>・レクリエーションの 実技Ⅰ</li> <li>・レクリエーションの 実技Ⅱ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーション 指導論</li> <li>・レクリエーションの 企画と運営</li> <li>・レクリエーション 指導法演習A</li> <li>・レクリエーション 指導法演習B</li> <li>・レクリエーション 指導法実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーション 特講</li> <li>・余暇活動支援法 演習A</li> <li>・余暇活動支援法 演習B</li> <li>・レクリエーション 演習ⅠA</li> <li>・レクリエーション 演習ⅠB</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域レクリエーション論</li> <li>・福祉レクリエーション論</li> <li>・レクリエーション 演習ⅡA</li> <li>・レクリエーション 演習ⅡB</li> <li>・卒業論文</li> </ul>
--	--	--	--	---